

2日間で応急復旧完了!

崩落した護岸の復旧作業が…



- ①・② 9月に発生した幹線排水路の護岸崩落。町内の建設業者が技術者と建設機械を出し合ってわずか2日間で応急復旧し、被害の拡大を防いだ。(今年度中に完全復旧予定)
- ③ 若手技術者の吉村圭亮^{けいすけ}さんは、県外の建設会社で経験を積んだ後、5年前に(有)佐樹花園に入社。工事のスケジュールや品質管理など、全体を統括する役割を担う。
- ④ (株)南崎建設では女性2人が現場の最前線で活躍。

まちの「がんばりびと」を紹介

住人十彩

2021 November
#19 ~氷川町建設業協会~



氷川町建設業協会は、町内18社の建設業者が加入している団体で、災害発生時の応急対策活動に関して、町と協定を結んでいます。今回は、会長を務める(株)野村工業の野村幸一さんに、協会での取り組みや建設業界を取り巻く状況などのお話を伺いました。

強く残っており、深刻な人材不足を抱える原因の1つといわれている。私たちの町も例外ではなく、建設会社の数は減少の一途をたどり、技術者の高齢化も大きな課題となっている。

それでも、30年以上この業界に身を置く野村さんが、「技術が進歩したおかげで、昔とはかなり変わってきている。」と話すと、以前よりも飛躍的に効率化に伴い、機器や重機などの高度化に伴い、

また、国では数年前から建設業における給与、休暇、希望の「新3K」をキーワードに、給与水準の見直しや週休2日の確保など、働きやすい職場環境づくりを積極的に進めている。

道路や橋、上下水道などの社会資本を造り、災害時には地域住民を守る。私たちの生活に大きく貢献している建設業は、子どもや孫に「これは私が造ったんだよ。」と自慢できる魅力があり、町が持続可能な発展をしていく上で必要不可欠な、大切な仕事である。

災害時に迅速な対応

近年頻発する自然災害。県内でも平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨など大規模な災害が続いており、現在もいたる所で復旧工事が行われている。

いつ、どこで起きるかわからない自然災害だが、町内で発生した時に頼りになるのが氷川町建設業協会。土砂崩れや道路陥没などですぐに復旧が必要な場合は、町の要請に応じて応急復旧作業にあたり、住民の安心・安全な暮らしを支える「地域の守り手」として大事な役割を担う。

「重機の操作や復旧方法など、建設業者の持つ技術や知識は応急復旧に役立つと思います。」と話す野村さん。8月の長雨で土砂が崩落し、交通量の多い道路が塞がれた時も、技術者を参集してすぐに応急復旧し、交通事故などの2次災害を防いだ。

最近の建設業

建設業には、3K(きつい、汚い、危険)のイメージが昔から根